



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 4 R6. 05. 15

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

君は“木鶏”という言葉を知っているか？ — 莊子（達生篇）の故事から —

今回は「木鶏」についてお話ししましょう。

「木鶏」とは書いて字のごとく木製の鶏のこと。次のような話に由来します。

紀元前 9 世紀、中国、周王朝の時代。紀渚子^{きせいし}という人物が、王のために闘鶏の鶏を訓練することになった。10 日経って王が様子を探ねると「まだです。やたら強がってばかりです」と答えた。また 10 日後、王が下問すると「他の闘鶏の声や姿を^{にら}みただけでいきり立ってしまいます」。そのまた 10 日後の王の下問に対して「いや、まだです。他の鶏を睨^{にら}みつけて己の強さを誇示していますから」と答えた。さらに 10 日が過ぎてから王が様子を探ねたところ「ようやく仕上がりました。他の鶏が鳴いても全く反応しません。『之を望むに木鶏に似たり』、まるで木鶏のように泰然自若^{たいぜんじじやく}としています。その徳の前に、かなう闘鶏はいないでしょう」と答えた。

1939（昭和 14）年、大相撲の横綱、双葉山が 70 連勝がかかった一番で敗れた時、「いまだ木鶏たりえず」と述べたことはよく知られています。これを踏まえて横綱白鵬も 2010（平成 22）年、連勝が 63 で止まった時に支度部屋で「いまだ木鶏たりえずだな」と言ったとか。ちなみに白鵬は「泰然自若」（落ち着いていてどんなことにも動じない）という言葉^{にら}を大事にしていたそうです。



平常心を失わないで勝負に臨むこと。これはなかなか難しいことですが、日々の努力がその感覚を生みます。連休が明け、勉強もいいペースになってきました。高校総体も間近です。「まだまだ、木鶏たりえてないな」。こういう言葉で一日を振り返ってみるのもカッコよくないですか。

孤独な時間を過ごせることは強みである — 自分と対峙する時間を大切に —

少し前の話ですが、先月末、SAGA2024 の強化指定の認証式が SAGA プラザで開催されました。本校の弓道部（男・女）がその指定を受けました。頑張っ^{にら}てほしいものです。

そのイベントの中で個人で指定された選手の一言コメントが写真付きで投影されました。失礼ながらどの競技の誰だったかは忘れてしまったのですが「誰も俺を信じないなら俺が信じる」と書いてありました。孤高のボクサーみたいでなんかカッコいいなと思いました。

ところで、現役時代は西武ライオンズで活躍し、中日の監督も務めた森繁和氏は『参謀』（講談社文庫）の中で次のように書いています。

つぶれない選手、伸びる選手には、共通点がある。…それは、孤独な時間をきちんと過ごせることだ。



スポーツに限らず、どんな分野でも結局は自分で考え抜いてやらなければ自分のものになりません。人生においても、単に仲間とつるんだり慰めあったりするばかりではなく、自分と^{たいじ}しっかり対峙する、いわば“孤独”の時間を自分の中に持つことが必要です。

家でスマホからしばし離れ、しっかり自分と向き合えていますか？

考える時間の長さは誰にも負けない ー少林寺拳法で全国1位ー

昨年度末に開催された令和5年度第27回全国高等学校少林寺拳法選抜大会男子個人自由単独演武で原紳太郎さん(2年)が堂々の優勝を果たしました。

原さんは小2から少林寺拳法を始めましたが、中学時代はバスケットボール部所属。週末に町の道場で稽古を続け、高校に入ってから本格的に毎日練習に励むようになりました。

そして上位大会に出場するにつれ、他県の選手との交流ができ、ライバルとして励みになっているそうです。

原さんは「全国制覇は昨年のインターハイ以来の目標だった。結果は出たが、これからのプレッシャーはない」と落ち着いたまなざしで次を見据えていました。「技を研究しているという自信がある。少林寺のことを考えている時間は誰にも負けない」と1分30秒の競技動画を2時間かけて繰り返し見るそうです。

少林寺の生命線は“スピード”と“切れ”。更なる高みを目指してこれからも頑張っしてほしいものです。



本校から高校生平和大使に！ ー吉田さん、県代表にー

第27代高校生平和大使に吉田光里さん(2年)が佐賀県代表として選ばれました。この活動は1998年から現在まで続いているもので、国連欧州本部の訪問をはじめとする世界各地で、核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴え、国内外に向け発信を行う活動です。

吉田さんは過去の大使の「普通の高校生でも世界的な活動ができる」という言葉に強く触発されたとのこと。きっと自分も社会を変えられるかもという思いがふつふつと湧き上がってきたことでしょう。たくさんのエントリーの人がいる中、「中村由一の



『ゲンバクと呼ばれた少年』という本を読んで感じたことを基調に自己PRをしたことが評価されたのかも」と振り返りました。

今年度の主な活動予定は以下のとおりです。

- ①広島研修(高校生平和大使結団式)
- ②原水禁世界大会長崎大会・平和集会
- ③国連欧州本部等訪問及び活動報告会への参加
- ④九州高校生平和サミット
- ⑤高校生一万人署名活動

【当面の主な予定(5月後半)】

- 17日(金)生徒総会
総体前45分授業:23日まで
- 20日(月)教育実習(5/31、6/7まで)
- 21日(火)内科検診(2年)
- 22日(水)尿検査
- 23日(木)高校総体壮行式
- 24日(金)高校総体スタート
- 29日(水)全校朝集会
- 30日(木)歯科検診(1年)
- 31日(金)英検

これも探究活動の一つですね。本を読み、いろいろな人^{めんもくやくじょ}と出会い、ゆかりの場所を訪れ、考えを深める。“探究を習慣にする学校、武雄高校”の面目躍如です。

(閑人閑話)連休中は武雄でも外国人旅行客をよく見かけた。そんな中、修学旅行が探究型に変貌しつつあると言う。▼先日、ニューースで東京の駒場学園高校が観光メインの修学旅行をやめ、地域の課題を見つけて解決の方策を探るという目的で佐賀市のホテルを活用するとあった。県内の高校もスキーオンリー、テーマパークで遊ぶだけという修学旅行は減ってきた。▼本校でも京都芸術大学の吉田大作先生から講義を受けて探究の大事さについて改めて学んだ。探究、探究というけれど、要は「自分の頭で考える」ということ。どんな立場、どんな世界でもこの姿勢は重要。▼十年前、AO入試(現総合型入試)は「学力不足」だと揶揄されたこともある。しかし今では多くの大学の調査で、大学1～2年生の時は一般選抜で入学した学生の成績は良いが、3～4年生になると総合型で入学してくる学生の成績が伸びてくるのが分かってきた。(日経新聞夕刊「受験のリアル」p.23)▼大学のゼミ(3～4年次)は座学ではない。アクティブラーニング系の学びだ。社会で求められる未知の課題に取り組む姿勢や対話が重視される。いわゆるまじめに暗記で身につけた知識だけではうまくいかない。▼高校では大学入試もあり、扱う知識事項が多いので勢い講義調の授業となることもあるかも。しかし、そういう場合でさえいかに能動的に受け止めるかが大切。うとうとするなんて言語道断。(昌)